



蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番10

TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝

高橋利春・屋代健・飯泉隆史

近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ

印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

『鏡：漢現じ胡来り、 声に彰れ色に顕る』

翠巖 弘

暑中御見舞い申し上げます。

今年も半年が過ぎお盆の季節になりました。年々、月日の経つのが早く感じられます。

上の写真は安善寺の本尊様です。季刊55号でも写真を載せましたが、中央が本尊、釈迦牟尼如来様、向かって右が獅子に乗った文殊菩薩様、左が白象に乗った普賢菩薩様です。一段下のお立ちになって二体の方々は、右が頭陀第一(比丘で衣食住などについて厳格で簡素な生活をおくる)の摩訶迦葉尊者、左が多聞第一(釋尊の説法を最も聴聞した)の阿難陀尊者です。お二方とも釋尊十大弟子の一人です。両尊者の真ん中に鏡が置かれております。

私は子供の頃より見慣れており、鏡のあるのが当たり前の如く思っておりました。しかし、神社では鏡が祀られておりますが、他のお寺では鏡がありません。私が本山から帰って間もない頃、ある

現じ胡来り、声に彰れ色に顕る」とも言われ、鏡は正直で、そのままを映してくれる。

怒った顔で鏡の前に立てば怒った顔が、深酒をして見れば二日酔いの顔がそのまま映る。又、重い鉄もそのまま映るが鏡が重くなるわけではなく、汚いものが映しても鏡は汚くならない。鏡は色々なことを教えてくれる。その人の真実を映す。だから安善寺では鏡を祀るのだと答えられておりました。

ある神社で、「鏡」が、みのが「我」を取るとか「神」になるとの説明を聞いたことがあります。

本尊様にお参りした時心穏やかな自分が映るよう精進したいものです。

【日々精進(三十七)】

「本山巡りの旅」での新たな発見

近藤 真弘

昨年引き続き、今年も長岡市仏教会青年部が企画した「本山巡りの旅」に行つて参りました。昨年は曹洞宗の本山である大本山總持寺など、関東方面五ヶ寺に参拝をいたしました。今年は浄土真宗高田派の本山である三重県津市の専修寺様を中心にした旅でした。

仏教会は超宗派の集まりで、今回は曹洞宗、浄土真宗、法華宗の皆さんと八名で早朝安善寺を出発いたしました。初日は車での移動がほとんどで、専修寺様には十四時頃に到着いたしました。まずは三百年以上前に建てられた重要文化財の山門をくぐり境内へ入りました。さすがは一宗の本山だけあり、見渡す広大な敷地に点在する伽藍はどれも

が荘厳な佇まいで圧倒させられるものがありました。それもそのはずで目に入る山門を含めた「御影堂」「如来堂」「唐門」「太鼓門」「鐘楼」、御影堂と如来堂をむすぶ廊下までが重要文化財ということで

す。特に親鸞聖人の御木像を安置する御影堂は畳七二五畳敷きの巨大な木造の建物で、木造建築では日本五番目に大きな建築物だそうです。そんな堂宇を専修寺の僧侶の方に案内をしてい

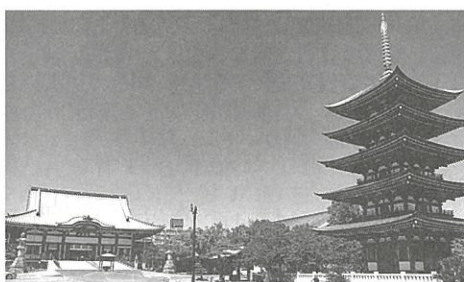


浄土真宗高田派専修寺様

ただきましたが、特に今回は浄土真宗高田派の長岡市呉服町にある西願寺様の上原さんから色々とお便宜を図っていただき、本来ならば入ることができないう場所まで丁寧に案内していただきました。

その日は高田会館という隣接した宿泊施設に泊まり翌朝は如来堂、御影堂で朝のお勤めにあい、お説教も聞かせて戴きました。朝のお勤めには一般の方も参りに来られており、地域と密着した本山の様子が伺えました。そして次なる目的地は伊勢神宮です。伊勢神宮に訪れるのも初めてで楽しみにしていました。実際に訪れると、外宮、内宮とそれぞれ広大な敷地の中にすべては見ることが

できませんでしたが百二十五もの宮社があり、それでいて自然の木々も多く残されており、お寺とはまた違った荘厳な雰囲気を感じられました。又、内宮の前にあるおかげ横丁は多くのお土産屋さんや飲食店が立ち並び、風情もあり活気に満ちていました。



日泰寺様

そんなお伊勢さんを後に向かったのは伊勢神宮の鬼門を守る寺である臨濟宗の金剛證寺です。ここは朝熊山という山の腹にあり、かつては伊勢信仰と結びつき、「伊勢へ参らば朝熊を駆けよ、朝

熊駆けねば片参り」といわれ多くの参拝者で賑わっていたそうです。

翌日は岐路に向かう前に、名古屋で日泰寺というお寺をお参りしました。このお寺はタイ国から贈られたお釈迦様のお骨が安置されており、日本で唯一のいづれの宗派にも属さない寺院で、現在は十九の宗派の管長が輪番制の三年交代で住職を務めています。寺名の由来も日本とタイ(泰)から日泰寺と名付けられたそうです。

今回も盛りだくさんの旅でありましたが、昨年と同様に曹洞宗僧侶だけでは経験できないことを他宗派の繋がりで経験させていただき、他宗派の教えに触れることができたのは大変貴重な経験でした。

今回の経験を自分自身の成長に繋げ、檀信徒教化の一助に繋げるため益々精進していききたいと思

楽しく幸せな二十年 るり子 ありがとう

平岡 誠

慈潤院誠信瑠璃大師。
亡妻るり子の戒名です。
大変立派な戒名をつけて
いただきました。まさか
るり子が先に逝くとは予
想だにしないことが起こ
ってしまいました。それ
まで元気一杯だったのに、
昨年の一月に肺がんが見
つかりました。それも末
期のステージ4で、手術も
出来ないとの診断でした。



私は茫然自失状態でオロ
オロしておりましたが、
るり子は何とか治すのだ
と落ち着いていました。

股関節に転移したがん
を切除し、人工関節を入れ
る手術をした後も、懸命に
リハビリをして歩けるよ
うになりました。その後
も抗がん剤による治療を
懸命に続けておりました
が、効果が得られず昨年十
月に旅立ちました。六十
六歳の誕生日の直前です。

るり子とは約二十年の
結婚生活でした。五十歳
を前にしての再婚です。
老いを迎えるに当り二人
で支えあつていこうと気
持ちが合い、一緒になり
ました。

るり子はいろいろなこ
とに興味を持ち積極的
に挑戦していました。慎重
で優柔不断な私は後ろか
らついていくだけでした
が、退屈することなく一
緒に楽しい体験がいくつ

も出来ました。本当に感
謝しています。

私が定年退職した時、
るり子が軽井沢に別荘を
建てたいと言ひ出しまし
た。結局、るり子に引ッ張
られて家を建て、最終的
には移住することになる
のです。全く知り合いの
いなかった土地ですが、
るり子は趣味のつながり
を作り、友達を増やして
いきました。

大好きだったゴルフに
新しく始めたシャンソン
にと輪を広げていき、私
もその後について新しい



土地の生活に慣れていき
ました。

私の趣味のランニング
にも付き合ってくれて、
地元のハーフマラソンの
大会には毎年一緒に参加
しておりました。

マラソンで残念だった
のは、るり子がフルマラ
ソンに挑戦することにな
り、名古屋ウイメンズマ
ラソンの抽選に当たり、
喜んでいましたが、その
直前にがんが見つかり走
らせてやれなかったこと
です。本人も悔しかった
ことだと思ひます。

私自身は仕事以外では
行ったことがなかった海



外旅行も一緒に行くこと
が出来ました。特にハワ
イはるり子のお気に入り
で何回も行くことができ、
楽しい思い出をたくさん
作りました。

そんな楽しい生活が続
くと思つておりましたが、
突然の病気、闘病、るり子
は最後まで弱音を吐かず
が、逝つてしまいました。
この二十年間は本当に楽
しい幸せな二十年でした。
これからその思い出
で生きて行けそうです。
るり子には本当に感謝し
ています。
ありがとう るり子。

「只」の世界

郷 保治

「只」とは、辞書を引くと「何もない事」「普通・なみ」「代価が入らない事」「取り立てて他に何もない事」「ひたすら」「わずか」というような意味が出てきます。

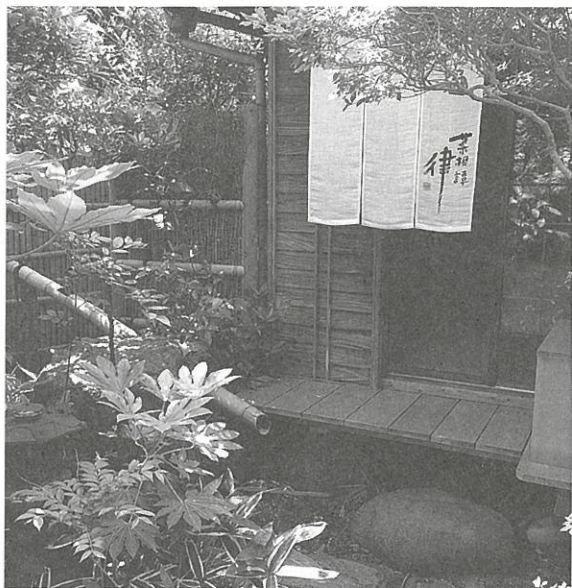
私たちの宗門では「只管打座」といい、ただひたすら座することを求められます。ただ座るわけですから、取り立てて何もないこと、ひたすら座るだけです。曹洞禅は特に何も教えてくれません。自らが気づくしかない。臨済ならまだ問答があります、だから時間がかかってのもそのうちわかってくるものがあると思います。しかし、ただ座る中では私たちはなかなか「只」の世界を気づけるものではありません。なのになぜ座るのでしょうか。

私は若い頃、坐禅を組んでその先に大きな悟り

の世界があると思った。悟りとは何か、分からないけど何か大きな超能力のようなものが手に入るのかもしれない、そんなあこがれがあった。坐禅を組んでそれを手に入れたと思うた。

つた。「眼横鼻直」だけだった。これらはどういうことを表しているのか、大宇宙の生命に気づき、人間の意志ではどうもならない自然の偉大なる統一さされている仕組みに気づいた。ただそれだけの事であったのかと思われてならない。

振る舞いが何の意思もなく自然に活動していること、それは常に自らの内にある宝物であり、また誰にでも等しく備わっているものであります。そこに大きな価値を見出すことが出来る喜びを感じます。



道元が宋の国において如浄禅師より印可を受け帰国する時は空手にて帰

たことではなく、自らのただ呼吸をしている、只いつもの一つひとつの立ち居

曹洞禅ではひたすら座って自分の呼吸に着目することで本来の自分、只ひたすら活動し続けている自分の生命の尊さに気づく事なのかなと思う。ただし、私たちの在家のものが「只管打座」で本来の面目を体得することは難しい面もあります。しかし、人が争わないで和していくことにとっても大切な人生の基本があるような気がいたします。

在家が「只管打座」ではなかなか気づけないもののようにですが、しかしほかにもつと優しく分かりやすい方法があるのです。それは「茶禅一味」のお茶の手前です。これは紹

鷗さんが言った、「お茶をたてずに茶をたてる」世界です。つまり、頭で茶をたてるのではなく自分自身の中にある自然の命が茶をたてる世界です。なんと興味深い、淡交な世界です。それらのいちいちの作法が本来の面目を表してくれれます。それらは全て「只」の世界です。そこに頭の中にある一切の善悪の理屈の世界は超越されます。

私たちがこうして生きていることにはたくさん人のかわりがありま

す。つい自分がいい思いをすることを優先に考えたり、また、どうすれば得になるとか、人よりいい生活をしたとか、みな頭のこねくり回した理屈の世界です。これらが過ぎると、災いを招いたり苦難をしい込むことになりまます。いつも「只」生きられる世界があるのだと言う事を常に心の隅に入れておきたいものです。和する世界を重んずるには、道元の正法眼蔵の「只」の仏教の世界を知る必要があるのです。

古稀を超えて思うこと

高橋 利春

お陰様で古希を超えてしまいました。親父は55歳で倒れ65歳で亡くなったのですが、親父の歳を超えられれば良いと思っておりましたが、70歳を元気で迎える事が出来ました。

私は新発田藩の溝口公の茶室、清水園の近くで生まれ育ち、小学生の頃は清水園の竹で水鉄砲や竹とんぼを作って過ごした貸本屋の男4人兄弟の次男坊です。

思い返せば少年期は貧しく、男4人朝食で稀に出る生卵は1人1個ではなく2人で分けて食べるのですが、先にご飯茶碗に掛けた方が卵の白身が多く入って返せ戻せの大騒ぎでした。そしてバナナや果物等は病気になるや食べられないものでした。あの頃は誰もがみんな貧



私(左)と兄

しく、中学の仲間の中で20人に1人くらいは丁稚奉公や集団就職に就く時代、男4人高校に行かせてもらい、それぞれ別々な家庭を持ち、孫を持つて、誰一人脱落せずに元気に過ごしていられる事は、両親がしっかりと育ててくれたお陰と感謝しております。

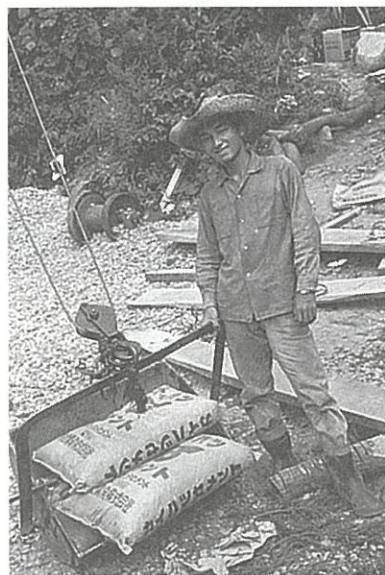
高校では新発田商工土木科、建設業の技術者を育てる学科ですが、県内のきかん坊の集まりみたい

なものでした。特に私達のクラスは2年の時に学校で怖いもの無しのクラスになっておりました。3年になったらクラスから生徒会長を出そうという事で、私は2年の時に立候補させられて副会長をしました。

夏休みになると毎年建設現場でのアルバイト。特に2年生の夏は山奥の砂防ダム現場で1ヶ月、飯場泊まりでの仕事でした。そこはプレハブの建

物で電気もない、ランプ生活です。飲み水には沢水を引き込んで炊事に使い、下流ではその小川を跨いでの水洗トイレです。そしてその下流では農業用水と、ずいぶん有効に利用したものです。

仕事は朝から夕方5時半まで、20〜30kgの岩石を「背負子」で担いでダム本体に入れます。そこにコンクリートを入れて固めダムを造るのです。砂や砂利も、車が現場まで通れないので索道でウインチを操作して上まで運ぶ、一日中大人に混じっての力仕事でした。くたくたになって飯場で食べる



土木工事のアルバイト

ご飯は、毎日茄子の油炒めと玉葱のみそ汁そして茄子と胡瓜の漬け物、それでも大釜で炊くので大変美味しく食べました。

そこに働く人達は腕節も強く、怖そうな人も何人もいて、夕食後、茶碗酒を飲みながら花札やサイコロ等をやるような人達でしたが、みんな優しいと人味がある人でした。この頃に酒を少し覚えたり花札の勝負を見たりして勝負事というものの感覚を得たのかも知れません。

機も無くスコップ等での人力作業でした。

それでこの頃感じた事は、将来の自分はどのようなのか、このまま普通に遊び普通に学び、普通に悪さをして普通の土木工事現場の監督が良いのか、設計し、図面を片手に現場の検査に来る役人が格好良いのか、自分の将来の夢を馳しながらに選んでいったと思います。

将来の自分はどんな人間になりたいのか。稼げる人になりたい、そうなるには今何をすれば良いのか。今やれる事は何だろう。学校へは徒歩7分と全校生徒の中で一番近くにいて勉強をする時間もあるのだから、成績も一番になれなければ努力が足りないということだ。

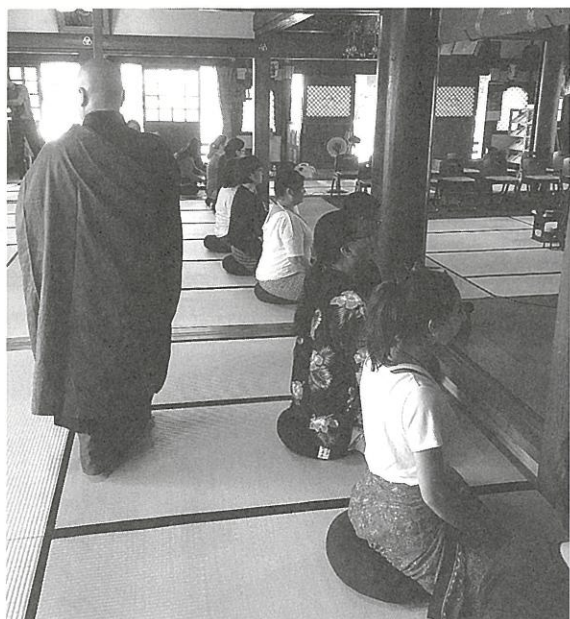
それから、やれるだけの事はやっておこうと思っただけでした。それからどうなったのか・・・。

つづく

フォートワースの中高生を迎えて

今年も長岡の姉妹都市であるアメリカフォートワースから十数名の中高生が坐禅体験に来山いたしました。

午前中はお茶とお花の体験を本堂で行い、午後からは坐禅体験、写仏に挑戦いたしました。最後に本堂で各々が鐘や太鼓を鳴らし日本の文化を存分に体験した一日でした。



背筋を伸ばして、初めての坐禅



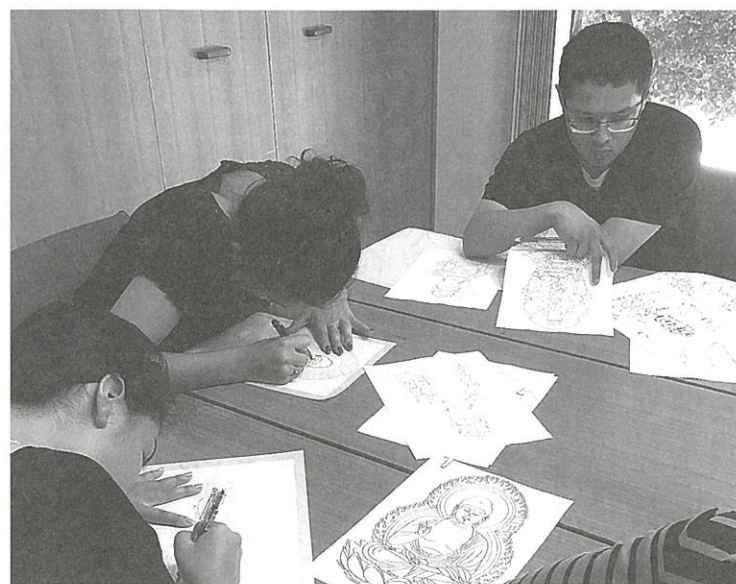
木版初体験



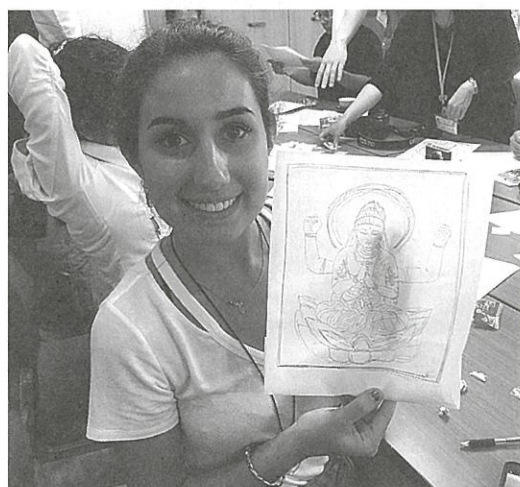
初めての生け花



鶴を折りました



あえて細かい仏様を写仏に挑戦



写仏完成!

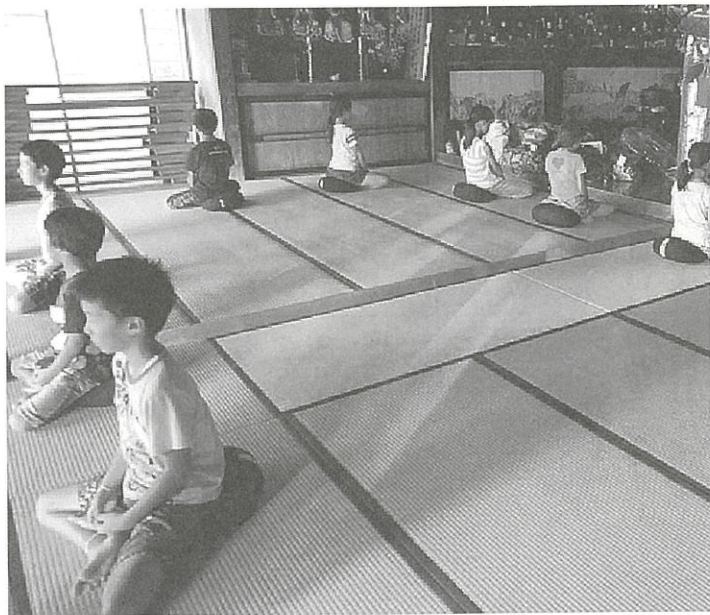
来れ、雑色の王車に等しき比中に沈溺す、智者に執著あることなし。『法句経』

毎年長生青年会で企画
しております子供対象の
坐禅会のご案内です。
坐禅会といっても坐禅

以外にも体験学習や、夕べの祈り、海水浴など様々な体験をご用意しております。対象年齢は小学一年生以上です。

開催日時は7月27日(木)
朝9時～28日(金)15時の
一泊二日です。参加費は五
千円です。

ご興味のある方や詳細
を伺いたい方は副住職ま
でご連絡ください。



精進料理体験

『味来食堂』の

ご案内

昨年引き続き今年も長生会による精進料理体験「味来食堂」を開催いたします。

九月下旬に長岡市の「な
じら」で東店内 e・ne
（イーネ）」にて開催予定
ですが詳細は後日お知らせ
いたします。精進料理
にご興味のある方は、ど
うぞ副住職までご連絡く
ださい。



『坐禅会』のご案内

以前にもご案内いたしましたが、安善寺では毎週火曜日の朝六時から坐禅会を行っています。事前お申し込みは不要ですが、火曜日から日にちが変更になる場合もありますので、初回参加の方は事前にお電話ください。尚、毎週の坐禅会以外にもお友達同士や会社、学校など団体で坐禅を体験したい方は日時等ご相談の上お受けいたしますので安善寺までご連絡ください。

旅立ち

(平成廿九年三月～六月末日まで)

松井 ムツ様
三月四日寂

長岡市高畑

今井 敏子様
三月五日寂

長岡市春日町

諸橋 満様 三月八日寂

新潟市南区

高橋 利雄様
三月廿四日寂

新潟市西区

林良治様
三月廿四日寂

長岡市高町

金子 テル様
四月一日寂

長岡市鉢伏

外山芙子様
四月九日寂

長岡市金房

鈴木 清樣
四月十七日寂

埼玉県入間市

小林 暖叶様
四月三十日寂

長岡市関東

関
二
郎
様
五
月
十
日
寂

長岡市東神

淡路 道子様 五月廿三日寂

長岡市水道

ご冥福をお祈りします。

KAKA笑の会イベントのご案内

「十三墓標」

龍馬 社主様、今は各村に渡つた大秋山の村々を巡るに重んじたい。一人の足が速いを願ふおとす。そと、ある時山崎の足で再び移住した
 泣きめめ心足が起きます。村落跡にある、十三の橋樑、二人は夜、回
 向に話れますが、其の夜からゴゴの庭の戸を開き、何夜不思議な男達
 が訪れます。そして……

作・語り 高井松男



人若し先に惡業を作るも(後に)善を以て比を滅せは能く比の世間を照す、雲を出たる月の如く。『法句經』

ボブの独り言

胸を撫でおろしています

ボブの独り言

誰が開けっ放しにしたいのでしょうか？

いつもは、きちんと閉まっている階段上の棚が：家には私（ボブ）とももちろん、それにバーバしかいませんでした。

いつものように、部屋で寛いでいたら、

誰か？ 早足で私が寛いでいる部屋に向かって来る足音がするではありませんか。もう待ったなしです。もの凄い勢いで入って来たと思ったら、私に向かつて吠え始めました。

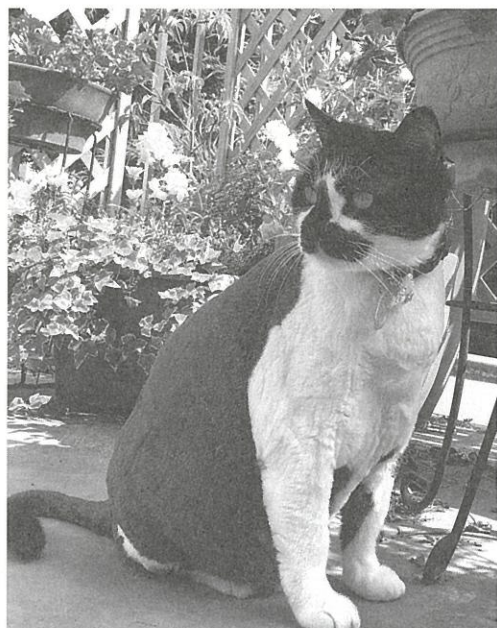
ももは案外弱虫なので吠えるだけなのですが、身体の大きさには敵いません。私も必死で、シャーシヤーと言いながら二本足で立って必死の抵抗です。声を聞きつけたバーバがももちゃんの首輪を掴んで下に連れて行ってく

れました。下では「ももちゃん、顔にボブの爪が刺さっている…、じつとして、取ってあげるから、消毒しなくて大丈夫から…」と言うバーバの声が聞こえて来ましたが、私はそれどころではありません。

胸の鼓動を抑えるのがやっとでした。ふー

四月に入って、待ちに待ったランドセルを担ぐ日がやってきた真人君、

周りが思っていたようにはいきませんでした。新一年生は同じ幼稚園から一人、町内から一人、どれほど心細かったのでしょうか？ 毎日毎日泣きながら、肩を落として行く姿に、何とも言えない日々が続きましたが、運動会も終わり、ようやく元氣に行くようになり、胸を撫でおろしています。本堂で「撫で佛様」で親



お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

しまれている「おびんずる様」お盆などになると、その仏様に触れておられる方々を多く見受けまします。多分、右肩が痛い方が多くお参りされたのでしょうか？ 気が付いたら、右肩から背中にかけて、ぼつかりと裂け目が出来ていました。かなりの重傷のようで、入院ならぬ修理中です。

空いている台座の上に、真人君と悠真君が交代に乗って、坐禅を組んでいました。ずーっと坐っているわけにいきませんからね！

お盆には綺麗に修理が終わった仏様がお坐りになつていらっしゃるでしょう。

編集 雑感

6月は当社旅行会社（社）にとつて一番の繁忙期です。その中でも一番印象に残った旅行のお話をします。

今年は東日本大震災から七回忌の年に当たりまします。そこで慰霊法要の旅を行いました。法要の場所は大川小学校。非難が遅れたため、数多くの方が犠牲となりました。3年ぶりに訪れましたがこ

様変わりで驚きました。海岸の土地がかさ上げされ、防災庁舎にはもう近くまで立ち寄る事ができませんでした。

その後、盛駅から釜石駅まで三陸鉄道震災学習列車に乗車し、車掌さんから車内にて震災のお話を頂きました。ちなみにその車両は新型で、新潟市にて作られたものだそうです。

車窓の景色はとても美しく、線路もきれいに整備され、震災の傷跡は全く感じられませんでした。復興は一部目に見えて進んでおりますが、依然として仮設住宅に住んでおられる方も沢山います。報道が少なくなると世間の関心も少なくなつてきているように思えます。今一度被災地に足を運び現状と復興に目を向けるのはいかがでしょうか。

飯泉 隆史